

世の中の変化 対応できていますか？

まごひち瓦版

ライフスタイルに関する情報をもっと知りたい
貴方にお届けする地元企業発行のかわら版です

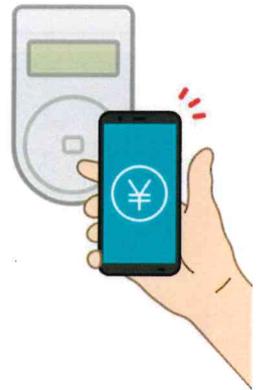
非接触化の波

セルフサービスの常態化が浸透し、毎日の生活でセルフサービス向けの機器やサービスが増えて暮らすことが難しい時代になってきました。コロナ流行以降、日本における健康と安全への関心の高まりが、セルフサービス技術市場に影響を与えているといわれています。物理的な接触を最小限に抑え、衛生基準を高めるため、非接触型のセルフ決済システムは外食産業や小売業などの分野で特に顕著です。

日常的に高頻度で利用する小売店のアプリや、ネットバンキング、キャッシュカードや引き落とし口座をスマホに登録している方が利用するスマホ決済の例をご紹介します。



ガソリンスタンドの給油では、スマホで登録アプリの二次元コードを表示すると、登録している給油方法で割引が適応され、利用者はノズルを給油口に差し込んでレバーを握れば、指定の量が給油され、登録済のクレジットカードや銀行口座から支払いが完了。



飲食店では、店員が注文を尋ねに来る事は減り、卓上の二次元コードを読み取って自分のスマホにお店のメニューを表示し、商品を選んで注文を送信。お会計も席を離れることなく、スマホ決済で完了。お店によっては、お料理を運んでくるのは人ではなく、ホール係ロボットというケースが増えてきました。

ファーストフード店でも注文端末で商品を選び、スマホ決済で注文が完了します。

新幹線や飛行機、映館等もスマホで予約購入が可能。窓側・通路側・スクリーンの正面、後方など空席状況を見て自由に座席指定が出来ます。便に乗るときや劇場でスマホチケットを発券機にかざしたり、改札口の読み取り機にかざせばサービスが利用できます。



電車やバスの利用も、登録・チャージ済みのICOCAやSuicaアプリを乗り降り時に読み取り機や改札にかざせばチケット購入も現金支払いも不要です。

口座からの振込や支払、プリペイド型カードへのチャージもスマホがあれば銀行窓口やATMに足を運ばなくても1分もあれば完了します。不安を感じがちなセキュリティに関して顔認証や指紋認証機能の付いたスマホを利用すれば、印鑑やクレジットカードを第三者に使われる危険性より安全度は高くなっているように思います。

全く現金を使わないので財布に常備するのは数千円ほど。クレジットカードや財布の中で増え続けるお店ごとの会員カードを持ち歩かなくてよいのは嬉しい限りです。スマホ世代がスリ被害に合う率も減っているのではないのでしょうか。

セルフ化が進み、スマホ決済やアプリからの検索や注文が身近になった昨今、人員削減、労働不足解消、コロナのような伝染性の疾病の流行を防ぐ時や、日本語が使えない海外からの来日者、聴覚障害者には非常に役立つセルフ化ですが、老眼や眼性疾患などが進行中の世代は、小さなスマホ画面に表示される文字や、画像サイズが変えられない注文端末の前で、シニアグラスを取り出すなど、ひとつひとつ、ふた手間かけないとメニュー画像や、価格表示が読み取りにくく悪戦苦闘している場面に出くわすことも・・・そして質問したい時に店員さんはいない。

小売店を久しぶりに利用すると、システムが一新していったなんてことも多く、非スマホ世代に限らず、置いて行かれた感を感じる人は少なくないと思います。

非スマホ世代や、スマホの表示を読むことが困難な人も都度対応できるマンパワーを配したサービスの充実や、システムの開発が進むことを願わずにはいられません。

該当する家族がいらないため、なんとなく気になっているのは、スマホを持っていない児童や、スマホ世代だけ未就業でクレジットカードを保有していない若い世代たちの現状。

キャッシュレス決済の比率が99%以上といわれる韓国のように、日本国内でキャッシュレス化がさらに進んだ場合、スマホの操作ができない人は勿論のこと、お小遣いとしてキャッシュを渡されていた未成年層はどのようにお買い物をしているのでしょうか？

PayPayアプリとか、交通系ICカードなどにお小遣いをチャージしてもらっているのでしょうか？

世の中の変化が早すぎて、自分に関係のない世代の暮らしぶりや不便さが全く実感できなくなってきました。ジェネレーションギャップなんて言葉では表現しきれない時代です。